

	就学前チェック項目	評価 1～5	評価 1～5	評価 1～5	評価 1～5	評価
項目	内 容	生活の中	自由遊びの中	課業の中	体育の中	戸外で
1	生活習慣の自立 (食・排・着・脱・衛・ クラスでの集団のルー ル等)	食 衛 着脱 集団	遊びの種類	わらべうた 文学 描画 環境認識		
2	集中して遊ぶ 想像して遊ぶ					
3	単純な遊び・ルールを 知っている					
4	話を聞くことができ る。					
5	絵本をたくさん知って いる					
6	いろいろな始点でグル ープ分けができる。					
7	遊びの中で10まで数 えられる。					
8	運動的なことができ ている					
9	空間感覚が分かる(左 右上下)					
10	ボールを上手に扱える					
11	利き手をはっきりして いる 微細運動が安定してい る(靴のひもが結べる) 5本の指が順におれる					
12	自分の名前が読める 自分の名前が書ける 自分の住所・電話が言 える					
13	絵や工作の道具・使用 方法を身につけている					

(7) について

数を数えたり、たしたり、減らしたりすることだけが数の学習ではありません。

何かの問題が起こった時にどう解決するか、どのような解決方法を選ぶか頭の中で物事をどのように整理するか、処理するか、物事をどう考えるか、ということにつながっています。

(年長で達成する一般的要求水準)

- ① より大きい、もっと大きいなどの空間の広がりにかかわる違いを作り出し、それを比較して、助詞（より、もっと）を正しく使って言い表せる。
- ② 二つの大きさ、量を同等にしたり、与えられた大きさ、量よりも小さいもの（少ないもの）大きいもの（多いもの）を作り出さなければなりません。
- ③ 身の周りの立方体であるものと、正方形の平面とを見つけ出さなければなりません。
- ④ 物をその性質によってグループ分け出来なければなりません。
- ⑤ 10までの量を（年中6）見る・聞く・触ることのできる方法で創り出し、量に相当する数を、感覚器官を通して確認できる、そして自分のしていること、したことを口でも言える。
- ⑥ 10または、10以下の量を二つまたは、三つ四つなどに分け、分けた物がお互いに同じだとか、より多いものと少ないものとかの確認ができる。

(9) について

- ①空間の関係を表す言葉を（上・下・横・～の下など）を自分と物との関係において考えなければなりません。

平成 年 月 日

児 童 名